

## 緊急速報

# 沖縄防衛局提出の「埋立許可申請書」の 公告・縦覧は6月下旬に始まります！

北限のジュゴンを見守る会・事務局

みなさん

安倍政権が「ジュゴンの海」を破壊する辺野古新基地建設のための埋立をしゃにむに急いでいます。

防衛省・沖縄防衛局は3月22日、「公有水面埋立許可申請書」を沖縄県土木建築部北部土木事務所（名護市）に報道陣の裏をかいて突如持ち込みました。それに対し4月12日、県は防衛局に33項目の「補正指示書」を提出しました。

ところが大方の予想に反し、防衛局は提出期限を12日も前倒して5月31日に「補正書」を那覇市にある県庁の県土木建築部海岸防災課に提出したのです。提出はこれまでと同様、今回もまた奇襲的電撃作戦で行なわれました。防衛局は県庁に電話したわずか3分後に文書を搬入したのです。

「埋立許可申請書」で防衛局が隠したがっている最大の問題は、埋め立てに要する膨大な土砂をどこでどれだけどのようにして採取するか、その土砂に有害物質が含まれているかいないかなどです。防衛局が直接土砂を採取すると改めて環境影響評価をしなければならないので、同局は民間業者に採取させるのですがその業者名も明らかにしません。

5月31日付『琉球新報』は県の担当部局は〈補正が適正に行われていることが確認された場合は告示・縦覧に向けた手続きを、補正が不十分な場合は再補正を求める〉との考えを示したと報道しましたが、6月5日、県は結局「再補正」を求めず、公告・縦覧を6月下旬に始めると表明しました。縦覧の期間は3週間です。その間私たちは県に意見書を提出することができます。

今回の「補正書」前倒し・電撃提出は、安倍政権が県に「埋立申請書」の審査を急がせようとしていることを反映しています。

政府は来年1月に予定されている名護市長選の前、つまり〈年内に〉仲井真知事に埋め立てを許可させることで基地誘致派候補に有利な政治的環境を用意し、「辺野古の海にも陸にも基地を造らせない」と公約し、それを実践している稲嶺進現市長の市長選での再選を阻もうとしています。

安倍政権は「オール沖縄」で普天間基地の「県外移設」を求めている沖縄の人びとの声にもはやいっさい耳を傾けず、ひたすら米国政府の顔色をうかがいながら、辺野古に米海兵隊の巨大な新基地を押しつけようとしています。

私たちは重大な岐路に立っています。あの美しい辺野古沖・大浦湾を埋め立ててジュゴンの安静な生息環境を破壊することなど、どうあっても許してはなりません。

ともに力を尽くし、日米両政府に辺野古新基地建設計画を断念させましょう！